

釣ってつかんで大喜び なかつくに公園でマス釣りとおつかみ捕り

REPORT 3

総領町のなかつくに公園で5月4日、ニジマス釣りとつかみ捕りのイベントが開催されました。

これは、田総川漁協が2年に1度開催しているもので、この日を楽しみにしていた約150人が参加しました。マス釣り大会では、公園内を縦断して流れる田総川を、網を使って100メートルの幅で仕切り、そこにニジマス1500匹を放流。約100人の釣り人が釣った数や大きさを競い合いました。

また、公園の上流にある田総の里スポーツ公園横「せ

せらぎ水路」で行われたマスのつかみ捕りでは、親子約50人が参加。子どもたちが、約300匹のニジマスが放された川に勢いよく入り、歓声を上げながらマスを追いかけていました。次々と捕まえる子どもに「もうそれくらいでいいから」と親が声を掛けていましたが、耳を貸さずに夢中で何十匹も捕まえていました。

田総川漁協の山根京司組合長は「このイベントを通して河川環境の大切さを知って欲しい」と話していました。



▲マスを追いかける子ども



▲さおを振る参加者

高齢者の交通事故減少を目指して 「庄原市高齢者交通安全指導員研修会」が開催

REPORT 4

5月11日から20日までの「春の全国交通安全運動」の一環として5月10日、庄原市ふれあいセンターで庄原市高齢者交通安全指導員研修会が開催されました。

これは、市と庄原地区交通安全協会、東城交通安全協会、庄原警察署、庄原市老人クラブ連合会が合同で主催したもので、交通安全意識の高揚と高齢者の交通事故防止の徹底を図る目的で開催しました。

当日は、老人クラブの交通安全指導員など約170人が参加。

庄原警察署の谷野秀行交通課長が「高齢者事故の現状、交通安全指導員の役割」と題して講演し、夜間での事故防止のために反射材を活用することの重要性などを参加者に呼びかけました。続いて自動車整備振興会が車の安全点検などを実演指導しました。そのほか、くちわエンジェルス「フラダンス」や庄原市永江太鼓保存会の「太鼓演奏」で会場は大いに盛り上がりしました。

最後に、老人クラブ交通安全部の若林桂士部長が「交通事故のない安全で快適な庄原市の実現をめざし一層努力する」と宣言し、研修会を締めくくりました。



▲反射材の着用を呼びかけ



▲実際に車両を使い安全点検

桜並木をみんなで美しく 比和放課後児童クラブが清掃活動

REPORT 1

比和放課後児童クラブへ通う13人が3月28日、比和町の温泉施設「あけぼの荘」前の桜並木を清掃しました。

児童クラブ(比和保育所)に隣接するあけぼの荘前の桜並木は、この冬の降雪で折れた桜の枝や枯葉が散らかり、その姿が目立っていました。児童たちは、自分たちが住んでいる地域の大切な場所を桜の季節を前にみんなできれいにしようと、熊手ヤスコップ、一輪車などを使って、枝葉集めや掃き掃除に汗を流しました。上級生が下級生に土とゴミを分ける方法を教えたり、「土は掃いて寄せよう」など声を掛け合ったりしながら約1時間かけてきれいにしました。

児童たちは、清掃を終えきれいになった桜並木に「心もすっきりと気持ちよくなった」と話し、中には「ゴミ掃除 心をひとつに がんばった」と気持ちを俳句に表す児童もいて、みんな笑顔を見せていました。



▲清掃中の児童の様子



清掃後のさくら並木

新緑芽吹く神龍湖に多くの人 帝釈峡湖水開き

REPORT 2



▲ゆっくりと龍船が登場

国定公園帝釈峡の観光シーズンの幕開けを告げる「第44回帝釈峡湖水開き」が4月29日、神龍湖で行われました。

帝釈峡の安全と繁栄を祈願する神事が行われた後、トレイルセンターしんりゅう湖前広場では、地元鬼神太鼓の演奏や子ども神楽の演舞などのステージショーのほか、観光客にはイノシシ汁が振る舞われました。湖面で

は、恒例の龍船が登場。紅白の煙を吐きながら進む龍船に歓声が上がっていました。

この日は朝から透き通るような青空が広がり、訪れた約2千人の観光客は、石灰岩が織り成す雄大な自然景観やイベントを思い思いに満喫していました。

主催した帝釈峡観光協会の藤原富雄事務局長は「今年は例年に比べ新緑が遅れているが、大勢のお客さまを



お招きし開催できた。今後も広島県などの関係機関と連携しながら帝釈峡の観光振興に努めたい」と話していました。

総領から被災者にエール 第2回抱きしめて笑湖ハイヅカ

REPORT 8

総領町の田総の里スポーツ公園で5月4日、「第2回抱きしめて笑湖ハイヅカ」が開催されました。

「抱きしめて笑湖ハイヅカ」は、昨年「3万人で手を繋ごう」を合言葉に三次・庄原の灰塚ダム周辺施設で大々的に実施されたイベントですが、今年は庄原会場に限定し東日本大震災の被災者の方へエールを送るチャリティを中心としたイベントとして実施されました。

メインとなる「ECOストーブ作り」では、定員の50人が集まり、携帯することができる薪ストーブ作りに



▲出来上がった薪ストーブ

熱中。この参加費5千円の内千円は、義援金として庄原市役所の義援金窓口へ届けられました。



▲薪ストーブづくりにチャレンジ

そのほか、三次観光協会による鶉飼の実演、総領町出身歌手「やまさき あや」さんのコンサート、ECOストーブで炊いたご飯や山野草の天ぷらなどの出店もあり、多くの人で賑わいました。

マツダスタジアムに庄原焼き登場！ 庄原市・日南市・由宇町が合同で特産品販売

REPORT 9



▲滝口季彦市長も応援隊員として参加



▲3市町が揃ってまちをPR

プロ野球公式戦「広島カープ」対「巨人」が行われたマツダスタジアムで5月13日、カープのキャンプ地「宮崎県日南市」、二軍の本拠地「山口県岩国市由宇町」、市を挙げて応援隊を結成している「庄原市」が合同で特産品販売を行いました。

この企画は、平成19年にカープ応援隊が日南キャンプを訪問したことをきっかけにスタート。今年は、カープを通して築いてきた3市町の絆を再確認するとともに、東日本大震災による被災地の早期復興を願い日本を元気付けたいとの思いを掲げて実施しました。

庄原市からは庄原焼きプロジェクト連絡会議が球場に鉄板を持ち込み、スタジアムのコンコースに特別に設けられた物品販売ブースで庄原焼きを実演販売。メンバーは声を張り上げながら華麗なヘラさばきで次々と焼き上げました。庄原焼きは評判も良く、用意していた約1,100食は完売。試合は惜しくもカープの敗戦でしたが、販売の様子が場内アナウンスやオーロラビジョンで紹介されるなど球場を大いに盛り上げました。

身近な山で森林の大切さを学ぶ 釜峰山で森林教室

REPORT 5



▲真剣に説明を聞く児童

広島北部森林管理署の西田一紀さんが、釜峰山の動植物や森の保水作用について、紙芝居やクイズを使って児童たちにわかりやすく説明。参加した児童32人は

口和町湯木にある釜峰山森林浴公園で4月28日、口北小学校の児童を対象に森林教室が開催されました。

この日は、

熱心に耳を傾けながら「今後、自分たちがどうやって森林を守っていけばよいか」など真剣な表情で質問していました。

説明終了後、小雨が降り始めた中、公園から約1km先の展望台を目指して登山にチャレンジ。道中では、樹齢120年のアベマキを観察したり、森林管理署の職員や備北森の里メンバーからいろんな種類の樹木を学んだりしながら約1時間かけて登りました。

最後に児童を代表して6年生の田原令望さんが「展望台までの登山はしんどかったけど、いろいろな森林の話が聞いて大変勉強になりました」とお礼を述べました。

しあわせ館に笑顔と笑い声が集う 第12回しあわせ館まつり

REPORT 6

西城保健福祉総合センターしあわせ館で4月17日、第12回しあわせ館まつりが開催されました。このイベントは、参加する人たちで実行委員会を結成して実施内容や運営方法を検討し行うイベントとして続いているもので、会のメンバーは約4カ月前から準備を進めてきました。

今年は「笑顔が集うしあわせ館 今年も会えたね12年」をテーマに、日ごろ、しあわせ館で活動している38のボランティアグループが中心となり、絵手紙や、さをり織りなどの展示、ロビーに設けられたステージで、踊りや歌、演奏などが披露されました。特に

展示では、昨年7月16日に起きた集中豪雨による災害の様子と昭和40年ごろまで西城町内を走っていたSLの風景写真が展示され、来館者の目を引いていました。

実行委員長の小谷勝行さんは「幸せを求める皆さんの活動が、まつりとして立派に実った」と笑顔で話していました。



▲最後にみんなで大合唱

高野の農村歩きを観光資源に 岡大内散策マップとDVDを作製

REPORT 7

高野町の岡大内自治会が、地元の山野草や名所を紹介した「散策マップとDVD」を作製しました。これは、地元の良さを再発見し、地域資源を活用したまちづくりを進



▲散策マップとDVD完成を喜ぶ白根巧八会長(左)と上岡照雄前自治振興区長

めようと、地域住民が植物と歴史に詳しい専門家と一緒に歩きまとめたものです。

散策マップは、A4版のカラー刷りで植物や歴史の解説が付いています。また、DVDは、春編と秋編

の2枚組みで、庄原市文化財保護審議会委員の伊藤之敏さんが山野草の特徴や食べ方を紹介する様子などが楽しめます。

平成25年の中国横断自動車道尾道松江線の開通を見据え、自治会長の白根巧八さんは「散策マップとDVD」の作製をきっかけに、観光ガイドの育成や観光コースの発掘、都市住民との交流活動へつなげ、地域活性化を図りたい」と話しています。

平成22年度庄原市自治振興区活動促進補助金を活用し、散策マップはA4版8ページを300部、A4版4ページを1000部、DVDは100本を製作。自治会の各世帯に配布するほか、下高自治振興センターに置いています。